

鑑 賞

地域と共に在る鑑賞サポート事業

「ワンコインコンサート “音楽のじかん”」 鑑賞支援サービスの取組とその後の展開

鶴岡市文化会館（荘銀タクト鶴岡）

伊藤玲子 タクトつるおか共同企業体 鶴岡市文化会館 事業企画係長

市の直営だった鶴岡市文化会館を建て替え、平成 30 年に指定管理者制度のもとで新規開館した荘銀タクト鶴岡は、自主事業のノウハウがない中で、試行錯誤しながら地域に根ざした事業展開を目指してきた。令和 5 年度には自主事業として定着しつつある「ワンコインコンサート」に初めて鑑賞サポートを付けて実施し、反響を得た。専門家の協力を得ながら、地元の高校生と連携した事前の実証実験コンサートを行ったり、来場者全員に鑑賞サポートの説明チラシを配布したりなど、独自の工夫も重ねた。今後は鑑賞支援事業を自走させていくことを目指し、地域を巻き込みながら活動を展開している。

●事業の目的・位置付け

地元の福祉関係者の方々の協力を得ながら、より多くの方々が芸術や文化に触れる機会を増やすことを目指す。文化芸術基本法では「国民がその年齢、障害の有無、経済的な状況又は居住する地域にかかわらず等しく」文化芸術の機会を享受することが基本理念としてうたわれており、荘銀タクト鶴岡においても多様な方々が集い、出会う機会を創出することを管理運営の基本方針としていること、社会包摂の考え方が前提とされていることから、障害のある方も参加・鑑賞・来館しやすい雰囲気づくりや企画・運営を日頃から考え、実践している。担当者としても、文化芸術は興味関心のある一部の人のためのものではなく、誰もが人生を豊かに楽しむためのツールであると考え、障害の有無に関わらずさまざまな方が行き交い、芸術を楽しむ場となるよう、誰もが来やすく楽しめる事業の企画や、公演のノウハウの習得に取り組みながら事業を展開している。

●事業を始めたきっかけ

公共ホールのプロデュースや自治体のアドバイザーなどを務める佐藤ヒロキ氏より鑑賞支援事業について提案されたことが始まりで、一般社団法人日本障害者舞台芸術協働機構主催の「令和 5 年度鑑賞支援サービス地域スモールモデル構築事業」モデル地域東北 3 館の中に出選していただいたことがきっかけとなった。流れとしては、令和 5 年 5 月に一般社団法人日本障害者舞台芸術協働機構代表理事である南部充央氏を招き、スタッフ全員が講習を受けたことから、鑑賞支援事業への機運が高まった。そして、南部氏のサポートやアドバイスを受けながら準備を進め、令和 6 年 2 月に初の鑑賞サポート付き公演を実施するに至った、ということになる。

また、当館の 6 つの基本方針の中に「交流の拠点」として多様な人々が集い、出会い繋がる機会を創出するという目的があり、これも実施理由の一つである。さまざまな理由でホールに出向くことができない方がより足を運びやすい環境にするにはどうしたらよいか、多くの人に文化芸術を届ける

にはどうすればよいか、まずは館スタッフがこの館をどうしていきたいかを考えたとき、“ここ鶴岡市にとって、この社会にとって、そして館として「誰もが文化芸術に触れる機会を創出する場を目指す」ためにやっていくべき事業である”という意思表示として、「まずやってみよう」という意向を固めた。

また、その前段階では障害の有無に関係なくインクルーシブなダンス活動を行っているダンスチーム「Kickin' Dance Fam」(代表:菊地将晃氏)が主催するワークショップ事業(toall)と連携したダンスワークショップなどを行ったことで、地元のアーティストに協力をいただきながら、地域と共に「劇場が社会包摂の取組をしていく」という意識醸成がなされていった(なお、令和6年度には障害のある方も出演した市民参加のダンス公演事業の地域アシスタントとして菊地氏、秦氏〈クラシックバレエ講師〉に事業全般においてサポート役を担っていただいた)。



ワンコインコンサート公演チラシ

●事業の内容

令和6年2月に地域創造の公共ホール音楽活性化事業として Modétro Saxophone Ensemble によるワンコインコンサートを企画し、初めて鑑賞サポートを付けて公演を実施した。耳が聞こえない・聞こえにくいお客様にヒアリンググループと赤外線補聴システム、ポータブル字幕機(リアルタイム字幕)の提供、また補助犬、車いす席対応も行ったほか、手話通訳、ノートテイク、ライブビューイング(未就学児も親子で楽しめるように、小ホールをライブビューイング会場にした)を行った。鑑賞サポートは後付けで企画に加えたため、調整にはやや苦勞することとなった。

この事業の経験を踏まえ、会館が鑑賞支援事業を自走させていく第一歩として、令和6年9月に「BLACK BOTTOM BRASS BAND ワッショイ★お祭りライブ」を企画・実施。前年度の課題の改善(「可動式で使いにくかった」という意見があったポータブル字幕機を、座席背面部に固定する形に変更するなど)を行ったほか、点字チラシの配布、公演MCや影アナなどの舞台手話通訳、サイン表示、アンケート代筆、字幕の点字表示(個人持込)等の新たなサポートも加えた。BLACK BOTTOM BRASS BAND には、出羽庄内国際村(国際交流センター)で開催した同コンサートの前夜祭にも出演いただき、外国の方々にも楽しんでもらう機会をつくった。

●事業を行う上での工夫

・本公演の前段階として、鑑賞サポート機材(ヒアリンググループと赤外線補聴システム)の実証実験を兼ねて、令和5年11月に地元高校の吹奏楽部によるミニコンサートを実施。機材の使い方を確認したり、当事者から実際に聞き取りやすかったエリアを教えていただいたりして、鑑賞支援のサービスを提供する上で改善の参考材料とした。当事者となつながらできたことで公演の周知・集客への協力がいただけたほか、メディアの協力もあり、鑑賞支援事業の取組を周知させることができた。

・静かにクラシック音楽を楽しみたい一般客の意向にどう配慮するか、理解を得ながら共存できないかと考え、鑑賞サポートの内容を全てオープンにすることにした。鑑賞サポートを行うことを最初から打ち出し、一般チラシにも記載したほか、障害のあるお客様が座る位置も示した。鑑賞サポートの取組を説明するチラシは来場者全員に配布した。

2024.2.23
ワンコインコンサート Vol.8
モデトロ・サクソフォン・アンサンブル
音楽のじかん一言、心、おどる、クラシックへの誘い〜

荘厳タクト鶴岡<鑑賞支援サービス>の取組について

本公演は、荘厳タクト鶴岡が、鑑賞支援サービスを通してより多くの方々が芸術や文化に触れることができる機会を増やすことを目指し、障害のある人たちの鑑賞支援をサービスとして、知識や経験ノウハウを実践的に学びながら取り組む初めての公演です。

この取り組みは文化庁「令和5年度 障害者等による文化芸術活動推進事業」の一環である「鑑賞支援サービス 地域モデル構築事業」(実施主体:一般社団法人日本障害者舞台芸術協機構)と連携して取り組む事業です。

荘厳タクト鶴岡では、専門家や実践経験を持つ地域の職員によるサポートを受けながら公演が出来る方法を一試に探し、「まずはやってみる」というところからスタートしました。

今回は、当館にある補聴システム機材の設置と、専門機関よりポータブル字幕機をお借りして、耳が聞こえない・聞こえにくい人も参加できる音楽コンサートづくりに挑戦しました。

地域の手話通訳者、要約筆記の関係者、福祉団体と連携して広域や家系の方法について学習をいただきながら、鑑賞支援サービスの体制を構築するための取り組みを行っています。

荘厳タクト鶴岡では、今後と継続的に人々から参加できる環境とは何か、冬を過ぎながら、多様な人々も参加できる地域の劇場の在り方について学びを深めて参りたいと思っています。

主催:荘厳タクト鶴岡(鶴岡市文化芸術)
共催:一般社団法人日本障害者舞台芸術協機構
協賛:鶴岡市、文化庁(国庫補助金) 令和5年度障害者等による文化芸術活動推進事業

鑑賞サポートについての説明チラシ

・地元の福祉関係団体の方々へは、「皆さんの力が必要です」と要請しながら進めていたことにより、関係者側からも前向きで積極的な動きと反応があり、力強いサポートをいただくことができた。

●実施体制

鑑賞サポートの担当職員 1 名＋事業企画担当 4 名の計 5 名で担当。事業当日は施設職員 12 名＋市民サポーター 12 名で実施した。その他、南部氏や佐藤氏、要約筆記関係者、手話通訳者など地元の福祉関係団体や専門家がサポート。要約筆記関係者の方には字幕タブレットへの表示において、公演の前段階で何度もやりとりを行い、長期にわたりアドバイスや協力をいただいた。

●研修

令和 5 年度に南部氏による研修を実施。全スタッフが、障害の特性と基本的な対応（コミュニケーション・グループワーク、字幕体験）、運営研修（弱視・手引き体験、車いす体験など）を受け、同年度の同機構の鑑賞支援サービス地域スモールモデル構築事業の中で、公演本番までの間に技術研修（ポータブル字幕や音声補聴装置の仕組み・機材設営、字幕体験会）を受講した。

●市民、学生、アーティストへの波及効果

次のように、事業に刺激を受けた人々の自発的な活動に波及効果があった。

- ・アーティストが事業に刺激を受け、南部氏に直接コンタクトを取って、自身の公演でも鑑賞サポートを取り入れた。
- ・実証実験コンサートでご協力いただいた高校（吹奏楽部の顧問）の先生が異動された先の高校（音楽ゼミ）の生徒から、自分たちの企画で鑑賞サポート付き公演を実施したいと要望があった。大ホールでの開催を目標にクラウドファンディングに挑戦し、他の学校の生徒や美術部にも協力を得ながら、令和 7 年 1 月 25 日に「目で聴く、身体で感じるコンサート」を実施した。

●事業についての感想・気づき

- ・最初に南部氏の講習会を全スタッフが受講したことで、改めて当館の現状やスタッフの意識の確認、館の特性や指針について話し合う機会が設けられたこと、また、地域の劇場と地域の障害者との関わり、インクルーシブな事業に取り組む際の困難さや課題について学べたことに大きな意味があった。
- ・開館当初から聴覚支援装置（ヒアリングループと赤外線補聴システム）を所有していながら、これらを活用した自主事業を行っていなかったが、今回の取組により、スタッフ間で障害のある方が来場できる環境づくりへの意識が高まった。また、事業の組み立てから当日運営までのノウハウも獲得できた。当事者で要約筆記関係者でもある方と、今後の事業の強力なサポーターとなり得るつながりをもてたことも収穫である。
- ・障害当事者の参加者からは、情報保障が確保された状態で鑑賞できたことに感激し、今後も利用したいという要望を多くいただくことができ、それがスタッフの継続へのモチベーションとなっている。
- ・当事者と直接話す機会をもてたことは、提供側の思いが当事者の意向と合致しているのか、当事者が本当に必要としているサポートなのかという、サービスの内容を考える上で参考になった。
- ・さまざまな立場の人が協働して創り上げていく過程において、対話を通じて当事者のさまざまな思

いを知ることでき、障害のある状態で生活している方々の社会的な立場や、生きづらい環境に晒されている現状などに気づくことができた。今後、一人でも多くの方が、多様な方が暮らしやすい環境について考える機会を得ること、鑑賞サポートの輪が広がることを目標にしながら、広い視点を持って本事業に取り組んでいきたい。

●課題と今後の展開

・「鑑賞支援のある公演を増やしてほしい」「字幕タブレットをもっと見やすく」「舞台にも手話通訳を配置してほしい」などの当事者の声を反映させていくにはどうしたらよいか、継続的に鑑賞支援事業を実施していくにはどうすればよいか、当館で自走していくにはどうしたらよいか今後の課題である。令和6年9月に当館と地元の方々だけで鑑賞サポート付き公演を行ったことは、自走に向けた大きな第一歩である。また、地域の協力を得ながらまち一体となって取り組んでいきたいと考えているため、行政からも本取組について経費負担していただくなど事業の継続につなげていきたい。

・初めての鑑賞サポート付き公演では館職員が先頭となって対応し、市民サポーターの現場経験の機会の創出とまではいかなかったため、今後はスタッフ全員で対応できるよう経験を積んでいきたい。また、対象とする障害特性を広げるとともに、地域に貢献していくという意味でも、アウトリーチにも力を入れていきたいと考えている。今後は福祉施設などへもアウトリーチを実施し、地域の劇場として多様な方が参加できる環境を整えていきたい。

・日常的に開放しているフリースペースから、普段は立ち入れない楽屋側まで周回できる建築空間を生かした、全館でパフォーマンスを行う「TACT おとアート」、地域の文化施設、商店街と連携する「タクトのちいさな映画祭」など、様々な方が参加しやすい内容や環境を考えながら今後も継続していく予定である。

【ワンコインコンサート Vol.8「音楽のじかん ～音、心、おどる。クラシックへの誘い～」事業データ】

実施年月：令和6年2月

入場料：500円

参加人数：来場者470人、鑑賞支援サービス利用者13人（うち、聴覚障害者11人、同行者2人）

補助金等：一般社団法人地域創造 令和5年度公共ホール音楽活性化事業、文化庁 障害者等による文化芸術活動推進事業（一般社団法人日本障害者舞台芸術協働機構「鑑賞支援サービス 地域スモールモデル構築事業」）

主催：文化庁、一般社団法人日本障害者舞台芸術協働機構、荘銀タクト鶴岡・鶴岡市教育委員会

共催：一般財団法人地域創造

制作協力：一般社団法人日本クラシック音楽事業協会

広報：市内の福祉団体や特別支援学校等にチラシ配布協力を依頼／やまぎん県民ホール（山形県総合文化芸術館）を通して県社会福祉協議会へ周知を依頼し、県内の社会福祉協議会へ広報依頼／一般社団法人日本障害者舞台芸術協働機構、HP・新聞・SNSでの告知、鑑賞支援専用チラシ配布（ユニコードあり）

【実施者基本情報】

所在地：鶴岡市文化会館（荘銀タクト鶴岡）

〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町11-61 TEL：0235-24-5188

設置者：鶴岡市

開館：2018年3月

管理者：タクトつるおか共同企業体

規模：大ホール（固定・1120席）、多目的鑑賞室（15席）、小ホール（移動式・約180席）、練習室、会議室、楽屋、託児室

施設の特徴：妹島和世氏設計による、庄内の山並みをイメージさせるデザインと、大ホールを囲む回廊型のエントランス、生音の響きを大切に臨場感のある劇場空間が特徴。エントランスは公演のない日も開放され、いつでも誰でも気軽に集うことができる広場のような空間となることを目指している。地域の人々と協働で創り上げる事業を数多く開催。

ホームページ：https://tact-tsuruoka.jp/



写真提供 鶴岡市教育委員会